

会議記録

会議件名	平成27年度 第1回大東大須賀区域認定こども園化推進委員会
日 時	平成27年11月9日（月）10：00から12：17
場 所	全員協議会室
出席者	推進委員会委員 20名 事務局 10名
会議の概要	
1	開会
2	<p>あいさつ 浅井副市長より</p> <p>大東大須賀区域認定こども園化推進委員会の委員をお引き受けいただきありがとうございます。大変重要な、責任のある仕事ですが、よろしく願いいたします。</p> <p>旧掛川市においても幼保一元化ということで、全国に先駆けて作業をしてきました。掛川市の乳幼児教育の発展に、さらに大きな結節点をつけることとなります。大東大須賀区域の幼稚園・保育園の一元化については、合併前の大東町・大須賀町時代から議論し、検討してきました。そして合併後の平成22年に南部地区の幼保再編計画の報告書が出され、平成24年に掛川市乳幼児教育振興計画の策定に向けて提言書が提出されました。このように検討を重ねてきましたが、国の子育て支援制度に大きな変化があり、掛川市においても国の動向をしっかりと見極めた上で検討する必要があるため、国の方針が明確になるまでこの進行に時間を取っていました。このたび、子ども・子育て支援新制度も正式に始まったため、いよいよこの仕事に着手したいと考えています。国の制度の変更により、掛川市子ども・子育て支援事業計画を策定し、本年4月からスタートし、その計画の中にも大東大須賀区域の再編整備が盛り込まれています。</p> <p>市民の皆様には大きな変化をもたらすことになるため、地域や市民の理解を得て、保護者や市議会等々、たくさんの議論や連携を行い再編を進めていきたいと考えています。本日お集まりの委員の皆様は、それぞれ各機関の代表であり、また保護者の代表もたくさん来ていただいています。大変充実した意見交換ができると思っています。</p> <p>今、待機児童という大変難しい大きな課題もあり、掛川市はこのことに積極的に取り組んできました。さらには地域による子育て、学童保育、そうした様々な問題があり、それぞれの課題について新しい方法を次々に打ち出したり、模索して取り組んでいます。この大東大須賀地区の認定こども園化が進めば、子育て日本一の掛川市になっていくと思います。</p> <p>さて、近年、人口減少、地域創生という言葉がたくさん出ていますが、掛川市でも掛川市創生本部会議を開催し、地域創生に取り組んできました。戦略が固まり、その中にも教育・子育てが位置づけられています。</p> <p>本日の会議では、大東大須賀区域の念願の認定こども園化について、たくさんの議論をお願いします。</p>
3	<p>委員の委嘱</p> <p>代表して山本伸晴委員に委嘱状交付</p>
4	委員・事務局紹介
5	<p>委員長・副委員長選任</p> <p>委員長に、山本伸晴委員を選任</p> <p>副委員長に、宇佐美千穂委員を選任</p>
6	委員長・副委員長あいさつ

委員長 皆様のご推薦により、委員長という大変責任の重い仕事であるが、お引き受けする。よろしくお願ひします。

色々な資料から見ると日本は、高齢者と子どもを比較すると、高齢者福祉は先進国の中でもかなり充実しており、介護保険をはじめ、システム、サービス共にかなり充実してきた。しかし子どもに対する国の支援が、非常に低い。みなさんに意見を伺っていくこの委員会は、大変重要な委員会になるだろうと考えている。

掛川市は県内でも先駆けて平成15年に「乳幼児センターすこやか」が開園している実績がある。全く初めての議論より、12年間の積み重ねの中でどんなメリット、デメリットがあったのか、検証するには十分な時間が経っていると思う。この委員会では、過去のことを参考にしながら、少し先を見た掛川市の子どもの問題を考えていきたいと思う。

副委員長 広報かけがわ11月号に掲載があったが、保育園に係る経費として21億円。対して高齢者福祉事業が4億円とあった。それを見たとき、掛川は子どもの保育にも力を入れているなど感じた。大東・大須賀区域は、古い文化を守りながら新しい文化を作っていくという土壌がある。

それまでの幼稚園、保育園の良さを生かしながら、健やかな幼児の成長を育む新しい場として、認定こども園を整備するという協議をしていきたい。そういう仕事に参加できることをありがたく思っている。

7 報告事項

(1) 大東大須賀区域認定こども園化の推進体制について

資料1について事務局より説明

質疑

委員 認定こども園の所管は内閣府、文部科学省、厚生労働省、この3つか。

事務局 認定こども園はいくつか種類があり、事務により所管が分かれている。国でもすべてが1つになっていないのが現状である。

委員 再編して作ろうとしている、認定こども園はどのような種類を目指しているのか。

事務局 現在の素案では、幼保連携型認定こども園を想定している。

委員 推進体制の説明時に、委員会を設置して枠組み、スケジュールなどに関する実施計画を策定するとあったが、この委員会で具体的にどういったところまで協議するのか。

事務局 枠組み、定員、場所、整備の順番、スケジュールについて協議する。

委員 そうすると、委員会は最後の認定こども園が完成するまで続くということか。

事務局 認定こども園を整備するまでではなく、方針を決めるところまでが委員会の所掌事務である。

委員 認定こども園の型が4つあるのは聞いている。その中で、幼保連携型に決定しているのか。

事務局 掛川区域の幼保園も幼保連携型を目指しているので、大東大須賀区域も幼保連携型を目指していきたい。

委員 どういう型があって、どういう特長があるかわからない。保護者の方もそうだと思う。

わかりやすい資料をもらえるといいと思う。

委員 幼保園を実際に運営している。幼保連携型でいきたいと言われたが、そこに決めてしまっているのかと思う。地域性もあるだろうし。現行制度では不明瞭な部分もあるので、制度自体が見直しされる可能性もある。幼保連携型と決めてしまうのは早いのではないか。

事務局 そのような視点も含め、協議の中で議論していただきたい。

8 協議事項

(1) 大東大須賀区域認定こども園化の素案について

(2) 今後の進め方について

資料2について事務局より説明

質疑

委員 平成21年～22年、南部地区乳幼児教育検討委員会では、大須賀2園、大東2園の4園化と提言されていたが、今回の資料で5園に方向転換している。5園に方針が固まっているのか。

事務局 今回のものは素案であり、決まったものではない。

- 委員 それぞれの案でメリット、デメリットがあると思う。これからはもっと少子化が進む。まずはメリット、デメリットの検証を行うべきだと思うが。
- 事務局 今後わかりやすい資料を揃えて協議していきたい。
- 委員 冒頭、副委員長が予算のことを言ったが、21億円ものお金を子どものために出している。それが本当に子どもの支援になっているのかを考えないといけない。施設が多ければ将来の負担も増す。ある程度まとめていくのが本来の姿だと思う。お金が子どもに有効に反映されるようであればいけない。そのためにすべての子どもが等しく教育を受けられるようにして欲しい。的確に予算が分散されるよう、先走らずに議論を進めていきたい。
- 委員 委員会が検討していく枠組み、定員、スケジュールの他に、運営に関してはどうなのか。民営の方向が示されているが、民営と公営のメリット、デメリットを整理してもらいたい。
- 事務局 メリット・デメリットを整理する。
これまで長く検討し、何回もの提言があった。その経過を踏まえて新しい実行計画を作っていこうとするものである。現時点で平成24年の提言が最終のものである。そこに4園であったり、民営についても示されている。これを基にしてどうするかということ。幼児数をみて適正配置をするとなっていることから、今回はまず素案を出させてもらった。
- 委員 大東は3園又は2園が示されており、特に千浜地区と大坂地区をどうするかが課題。もう1つ、城東地区。3つの小学校があり、住民の理解を得ないと難しい。掛川市の総合計画の中で、将来の地域づくりの方向性も並行して考えていかないといけない。地域づくりを考えての資料づくりをお願いしたい。
- 委員 副委員長が言われた広報掲載の決算額は一般会計の数字で、他にも特別会計がある。高齢者福祉は子どもと比較すると桁違いに多い。100億円くらい。全国的に、子どもに使われるお金は圧倒的に少ないのが現状。データを出すと、40年前、65歳以上が約6～7%しかいなかったが、今は25%にもなる。対して子どもは10人に3人、14歳以下は現在の倍近くいた。それが現在は10人に1人、約10%。このままでは30～40年後にどうなるか？65歳以上は約40%、子どもは10%を下回ってしまう。65歳以上と子どもが国民の約半分を占め、残りの約半分が高齢者と子どもを支えていかなければならなくなる。今までとは状況が全然違うから、今のうちに子どもにお金をかけて教育をしっかりとやっていかないと困る、というのが「子ども・子育て支援新制度」ができた背景である。待機児童対策とか目先のことより、子どもたちの教育と保育をしっかりとしていかなないと国自体が困ったことになる。掛川市にも同じことが言える。その意味からも、この会議は大変重要であると考えている。
旧掛川市の幼保一元化は平成8年に最初の委員会が立ち上がり、すこやかが開園するまで約7年かかっている。掛川らしい幼保園をどう作っていくか議論をし、最終的に提言としてまとまるまで約3年半かかっている。ただ、当時は文部科学省と厚生労働省が全く分かれており、幼稚園と保育園を混合で保育していきたいという、掛川市の先進的な計画が認められなかった経過がある。当時はゼロから榛村元市長が音頭を取ってやった。掛川市では乳幼児をこういうふうに教育、保育していきたいというビジョンが元市長にあり、そのビジョンに法人が賛同し、一緒に動いていった経緯がある。今は国がそれに追いついてきて制度の整備が進んでいる。あとは誰が音頭を取って南部を再編していくのか、民営化するならその法人はどう関わっていくのかを、この委員会で方向性を出していかないと机上の空論になる。このような議論には時間がかかるので、みなさんで一致団結して議論を進めていかないといけないと思う。
- 委員長 本日の議論の集大成、まとめをもらったという気がする。予算の件では、高齢者福祉に係る予算は介護保険を含めると掛川市は約100億円。それに比較すると子どもにかける予算は本当に少ない。国としても先進国の中ではかなり低い。その認識を持っていないとダメだと思っている。幼保一元化という言葉は、正確には掛川市もまだ一元化ではなく、二元化である。本当の意味での一元化とは、文部科学省や厚生労働省というものを取り除き、(仮称)児童省のような省庁ができ、法律からやり方まで全部が一緒になること。難しいが将来的には一緒になるだろうと希望は持っている。本日の会議で、委員からも学園化構想や総合計画と連動しているから、という話もあったし、次回以降は何園にするかにしても具体的に数字で示してもらえるといいと思う。前回の提言は、その時点でのもので、ある意味尊重していかないといけないと思う。しかし現実には動いている。以前に言ったことを絶対変えてはいけないという縛りはないので、この委員会でさらに詰めていきたいと思う。

- 委員 別の委員からもあったが、総合計画は掛川市の大変大きな計画であるから、幼保再編もその計画に従っていかなければいけないと思う。何をやるかと言えば、子育て、教育、若い人の定住促進。この3つを戦略の中でも考えている。今後人口は間違いなく減る。それを減らさず維持していくことを考えている。その3つを支援すれば、どんな土地であっても人は増える。予算について、これまで以上に子どもや若い人のために使うよう切り替えていかないとはいけないと考える。
- 委員 今回の素案については、具体的に議論を進めていくとなると施設を何園にするかは不可欠である。平成22年の南部検討の中でも民営化しようがしまいが、一元化すると書いてあったと思う。この委員会は認定こども園化についての話し合いである。今、話があったように、費用の観点からこの再編を検討する必要がある。4園を5園にすれば、その分のコストは当然かかるので、予算・費用に関する資料を出してもらえると検討もしやすいと思う。
- 委員 本日は保護者の方も出席しているので、今までの議論の中で保護者がどう考えているのか伺ってみたい。
- 委員長 どんなことでも結構ですので、ご発言をお願いします。
- 委員 わからないことだらけ。認定こども園化とは自分の子どもが通っている幼稚園が認定こども園化することなのかと思っていた。
- 委員 施設規模は大きくなりすぎない方がいい。ウイルス拡大や先生との距離感など難しくなりそうに感じる。
- 委員 説明を聞いて「そうなんだ」という感じで、よくわからない。海に近い園はもっと北側になる方が安心。
- 委員 責任の重い会議であり驚いている。認定こども園がわからなくて携帯で調べた。幼保園と同じなのかと思ったが、保育する部屋が一緒だと聞いた。働いている身では、行事がどうなるのかとか、働いていないお母さんとは生活が違うからどう関わりあっていくのかとか、保育料も気になる。
- 委員 働いている保護者からすると、園が少なくなり場所があまり遠くなると出勤やお迎えの時間が遅くなってしまおうという事も検討に入れて欲しい。一方で、園が多いと園児数が少なくなり、子どもとの関わりを考える必要がでてくる。幼稚園部と保育園部では、保護者の考え方や仕事の関係で、代表を立てた時に大変になると聞いたことがある。家庭保育の時間の違いで子どもの質も変わってくるため、規模もこれからの子どもの数などを踏まえて考えてくれれば安心。
- 委員 認定こども園化されることのメリット、デメリットをよく考えて進めていければいいと思う。
- 委員長 現実にお子さんを通わせている立場のみなさんの言うことはよくわかる。我々でさえ細かいことはよくわからないことがある。今日いきなり何園化構想と言われても、何の話をしているのかわからないだろう。お忙しいかもしれないが、市が学習会のような情報提供をしてもらえば、議論が見えてくると思う。次回までにわかりやすい資料を用意するなり、手だてを講じてくれるといい。本日いろいろなご意見をいただき、かなり具体的なものが見えてきた。
- 委員 学校は文部科学省所管で幼稚園の理解はあるが、認定こども園となると、教育の意思の統一感はどうなっていくのかと聞きながら考えていた。
- 委員 幼保一元化がどのような形で実現していくのか、どのように進めていくのか、もう少しわかってくると議論が進むだろうと感じた。
- 委員 いろいろな観点での話を聞いて、なるほどと思った。今後、この意見を反映させていけるか検討していく必要があると感じる。
- 委員 施設は老朽化してきている。本日、掛川市が公立幼稚園をどうしたいのかを聞きたいと思っていた。そして民営化の方向にあると理解した。規模が大きくなると子どもの顔、保護者の顔を覚えられるのか不安。きめ細かな保育をしていきたい。そこを考えて検討を進めていきたい。
- 委員 幼保園開園当時は幼稚園も保育園も分け隔てなく子どもを育てようという思いから始めた。国が認めてくれなかったが、混合保育について研修を重ねたこともあった。保護者の方も安心して子どもを預けてくれると思っている。最近では特別支援児が増えている。大規模園では生活しにくいと感じる方が、南部の施設を選んで通っている現状もある。この再編で南部の規模が大きくなると、そこを選んで通っていた子どもたちの行き場がどうなるのか心配ではある。しかし、大規模だからかわいそうとか、そういうことはない。それなりの良さもある。

地域性を考慮して決めていければと思う。

委員長 本日いただいた具体的な意見を整理し、優先順位を決め、議論していきたい。
資料を事前に送ってくれば、目を通した上で会議に臨めるので議論が深まると思う。
本日はいろいろな立場から意見をいただき、見通しが明確になってきたように感じる。

9 その他連絡事項

事務局 今後、議論が深まるような資料を作成し、会議前に提供をしていきたい。
本委員会の資料、議事録は市のホームページで公開していく予定。
次回の委員会は1月頃開催予定。

10 閉会